

電車・駅の火災レスキュー



車用脱出ツール、警備でも貢献

ワイピーシステム（埼玉県・火具など3機能を一体化した所沢市、吉田英夫社長）が手製。電車での火災や放火が
がける自動車用緊急脱出ツール「消棒レスキュー」が電車
課題となる中、乗客の安全・安心の向上に貢献しようだ。
や駅の警備の現場に採用され、採用したのは警備会社のテ
た。二酸化炭素（CO₂）消イケイ（東京都新宿区）で、

ワイピーシステム テイケイに納入

同社が警備を担当する東京都
交通局の都営地下鉄と日暮里
・舎人ライナーの計約40駅の
電車・駅構内の警備に消棒レ
スキューを携帯している（写
真）。近年、電車内での放火
事件が相次いだことを受け
て、テイケイでは消火具の携
帯を検討し、選定を進めてい
た。消棒レスキューは重量が
約370gと軽量で警備員が
携帯しやすいほか、消火剤が
CO₂のため電気系統火災に
も対応できる。

性能を検証し初期消火レベ
ルに達していることを確認、
（川越）

緊急時に「シートベルトを切
る」「窓ガラスを割る」「火
を消す」という3機能を一体
にしたもの。日本初の日本産
業規格（JIS）認証品で大
手自動車メーカーの純正指定
を得ている。

東京都交通局の了承や総務省
消防庁からの「お墨付き」を
得て採用を決定した。テイケ
イの中村規宏常務は「警備員
が携帯でき、とっさに使用で
きる。火災発生時の初期消火
の手助けになればいい」と強
調する。また警備員が消火具
を身に付けることで放火の抑
止力につながることも期待し
ている。

日刊

THE NIKKAN

工業

KOGYO SHIMBUN

新聞

10月18日 火曜日

2022年（令和4年）